

サーキュラー エコノミーを創る

産学連携推進機構
理事長

妹尾 堅一郎

10

人類を物質的に豊かに移行なのである。

にする従来型の「線形経済」(モノ消費主導経済)が限界を迎え、

行き詰まってしまっ閉鎖系システムとして産業革命以降、線形経済は二つの問題を生み出したのだ。

一つは環境汚染—これは気候温暖化を加速させ、今や地球沸騰化とすら呼ばれるようになつた。もう一つは資源枯渇—これは資源争奪戦を招き、今や大國間の覇権争いも絡んで経済安全保障に關連する大問題になつた。

面方の問題に同時対応できる現実的な解法は、従来の「線形経済」から「循環経済」への

■筆者略歴■慶應義塾大学経済学部卒業後、富士写真フィルム勤務を経て、英国国立ランカスター大学経営大学院博士課程満期退学。慶應義塾大学大学院教授、東京大学先端科学技術研究センター特任教授、一橋大学大学院客員教授などを歴任。企業研修やコンサルテーションを通じて、イノベーションやビジネスモデル、新規事業開発等の指導を行っている。著書に『技術力で勝る日本が、なぜ事業で負けるのか』等。

た1970年代の40億人の、なんと2・5倍である。

つまり、従来の豊かさ(モノ使い続け)を維持するために、一人当たりの資源使用量を最小にして最

蓄積した総量を上回ることは難しい。環境負荷の高い鉱山開発は憚られない。そして、資源は大価値を創出せねばならない。そして、資源は循環経済に寄与する使用に傾斜配分せざるを得ない。

過去：大量モノ消費主導経済
「大量生産・大量消費・大量廃棄」

現在：3R付き消費主導経済
「適時適量生産・適切消費・適正廃棄」

未来：資源循環経済
「極小生産・適小消費・無廃棄」

経済モデルの過去・現在・未来

ちろん3Rは重要だが、廃棄物処理の発想に留まってしまうと、ビジネスや産業の側面からは隘路に入りやすい。さらに日本では、焼却処分をサーマルリサイクルと称してリサイクルの範疇に入れるなど、世界と異なる点も目立つ。そうせざるを得なかった当時の理由は、今後は「ブルーオーシャン」なのである。その準備を始めるには、間に合わないのではないかと。多くの国では循環経済ではないか。

「買い換え」から「使い続け」へ

「買い換え」は、モノづくりに必要な「買い換え」を進展しようとする。それは適切な競争「領域」に「買い換え」を進めようとする。それは適切な競争「領域」に「買い換え」を進めようとする。それは適切な競争「領域」に「買い換え」を進めようとする。

「買い換え」から「使い続け」へ

「買い換え」は、モノづくりに必要な「買い換え」を進展しようとする。それは適切な競争「領域」に「買い換え」を進めようとする。それは適切な競争「領域」に「買い換え」を進めようとする。